

2013年度 通期 決算概要



2014年4月25日
日野自動車株式会社
代表取締役社長
市橋 保彦



将来予測について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。

報告内容

1. 2013年度の実績
2. 2014年度の見通し
3. 2014年度の取り組み

1. 2013年度の実績 <販売/損益の状況>



**国内外での増販、着実な原価改善、
為替円安の影響等もあり、過去最高益を更新。**

下表☆:過去最高

<販売の状況>

(単位:千台)

	13年度実績	12年度実績	増減	増減率
日本	52.2	43.7	+ 8.5	+ 19.4%
海外	☆ 114.0	111.0	+ 3.1	+ 2.8%
グローバル	☆ 166.2	154.7	+ 11.6	+ 7.5%
トヨタ車	186.6	185.8	+ 0.9	+ 0.4%

<売上・損益の状況等>

(単位:億円)

	13年度実績	12年度実績	増減	増減率
売上高	☆ 16,996	15,414	+ 1,582	+ 10.3%
営業利益	☆ 1,122	651	+ 471	+ 72.3%
当期純利益	☆ 891	477	+ 414	+ 86.9%
配当金(1株当たり)	☆ 38円	23円	+ 15円	+ 65.2%

詳細は“決算詳細説明資料”参照

1. 2013年度の実績 <業績評価>

5/9



▶ 北米・中南米・中近東・欧阿で販売拡大し、グローバル全体での増販を達成。

▶ 前期に続き、今期も所在地別セグメントすべてで増益。

▶ TS収益も着実に拡大。

ただし、13年度後半から新興国を中心に不透明感が強まる

2. 2014年度の見通し <環境認識>

6/9



14年度は市場の先行き不透明感が継続

日本

消費増税に伴う駆け込み需要の反動減、人手不足の足かせはあるが、景気回復や公共投資に支えられ、需要の底堅さは継続。

海外

- ・新興国市場は中長期で拡大も、足元の成長は従来より緩やか
- ・為替の動向は引き続き不透明
- ・グローバルメーカー参入によりアセアン中心に競争は厳しさが継続

2. 2014年度の見通し <販売/損益の状況>

7/9



**国内・トヨタ事業減を海外販売でカバー。
ただし、タイの市場リスクを反映。**

<販売の状況>

(単位:千台)

	14年度見通し	13年度実績	増減	増減率
日本	49.5	52.2	▲ 2.7	▲ 5.2%
海外	127.1	114.0	+ 13.1	+ 11.4%
グローバル	176.6	166.2	+ 10.4	+ 6.2%
トヨタ車	157.9	186.6	▲ 28.7	▲ 15.4%

<売上・損益の状況等>

(単位:億円)

	14年度見通し	13年度実績	増減	増減率
売上高	16,000	16,996	▲ 996	▲ 5.9%
営業利益	900	1,122	▲ 222	▲ 19.8%
当期純利益	580	891	▲ 311	▲ 34.9%

配当金(1株当たり)	38円	38円	-	-
------------	-----	-----	---	---

詳細は“決算詳細説明資料”参照

3. 2014年度の取り組み

8/9



- ① 環境の変化を注視しつつ、慎重な舵取り
- ② 将来の持続的成長に向けた取り組みは着実に推進

販売・保有の拡大 と 生産供給・お客様サポート体制を強化

良い商品・良いサービスを武器に、各市場での競争力を向上

将来を見据えた体質強化のため構造改革を着実に実行

1. 世界中のお客様へ、適格商品を最短のリードタイムで提供

- ・商品：モジュール化新製品(市場適格車)の投入準備を加速
- ・生産：グローバル生産体制構築は最終段階

2. お客様の求める価値を提供 (トータルサポート)

- ・TS支援センター立上げ、整備力向上 ほか

3. 先進技術の積極的な開発、他社に先んじた市場投入 (安全・環境)

- ・東京五輪を見据えた技術開発の加速



HINO基本理念：**会社の使命**

**人、そして物の移動を支え、
豊かで住みよい
世界と未来に貢献する**